

東京外国語大学

市民聴講生の集い

戦争民主主義と

戦後日本

2016 / 3 / 24

中野敏男

今日の主題は

あえて、戦争民主主義

戦後日本の「平和主義・民主主義」
の危機が言われているが

そもそも（つまり原理的にも、歴史的にみても）

戦争と独裁 平和と民主主義

というのは堅固な対抗軸ではなかった

戦争を支持しそれに依存する民主主義

今はこれへの注意と批判が必要では？

この主題設定は 戦後70年を過ぎた現在を意識

昨年顕著に現れた民主主義の危険と希望
：「戦争法」と「SEALDs」

これは民主主義にとって新しい現象
確かに、今はとても重要な転換点にある

そうであれば、希望を広げるために
原理的で歴史的な反省と考察が必要

もう一つ、日本の民主主義の危機の現在

国土面積では0.6%に過ぎない沖縄に
約74%におよぶ在日米軍基地が
集中しているという問題

それなのに
辺野古新基地建設をめぐる意志決定の構図

推進： 巨大与党に支えられる日本政府



議会制民主主義の下
国会内の数の力で圧迫



反対： 翁長知事を擁する「オール沖縄」

**多数決原理と自己決定権の相克という
民主主義の根本問題**

そこで考えておきたいのは、

歴史の中で

「民主主義」が実際にもってきた意味

問題があったなら、それを克服して

現在と未来のために

民主主義 が真に生きるための条件

この考察により

「民主主義ってなんだ」という問い
にできる限り応答しよう

日本近現代史の中で
「民主主義」の時代とは
何だったのか？

日本近現代史で「民主主義」の時代は三つ

自由民権運動の時代

1877年 西南戦争（内戦）終結

1881年 国会開設の詔

1889年 大日本帝国憲法

その時代を
さらに
追跡すると

1894年 日清戦争・甲午農民戦争

日露戦争

大正デモクラシーの時代

1905年 日比谷焼き討ち事件

1925年 普通選挙法、治安維持法

1931年 満洲事変 日中戦争

戦後民主主義の時代

1945年 日本敗戦

1947年 日本国憲法施行

1950年 朝鮮戦争 ベトナム戦争

いずれも戦争の時代を先導していた。つながりは？

自由民権運動と戦争について

大阪事件(1885)と大井憲太郎

大阪事件・ ・ 民権派の大井らが朝鮮の独立党によるクーデター計画を支援・介入するため大阪などから朝鮮に渡航を企てた事件

↑ これ自体が主権侵害だ！

大阪事件における民権と国権の結合

「その意図は外患をおこして日本人の憂国心をおこし、立憲政治の勝利と朝鮮独立の **一挙両全** をはかるため」

(「日本近現代史事典」長谷川昇)

注目したいのは

動機の核にある大井の(日本の労働者細民のための!)植民地主義

「大殖民政略を実行して、労働者細民に、有利の労働、有益の生産を與へ、内に在て嘗々貧困に窘ましむる舊習を打破せざるべからず。」(「吾人の希望」1903 大井憲太郎)

この植民地主義が民権を国権に媒介している

自由民権運動と戦争について

日清戦争(1894)と福沢諭吉

民権派の福沢が見る「外国交際」のリアリティ（通俗国権論 1878）

「百巻の万国公法は数門の大砲に若かず、幾冊の和親条約は一筐の弾薬に若かず。大砲弾薬は以て有る道理を主張するの備に非ずして無き道理を作るの器械なり。」

中国・朝鮮に対して（脱亜論 1885）

「今日の謀を為すに、我國は隣國の開明を待て共に亜細亞を興すの猶予ある可らず、寧ろ其伍を脱して西洋の文明國と進退を共にし、其支那朝鮮に接するの法も隣國なるが故にとて特別の会釈に及ばず、正に西洋人が之に接するの風に從て処分すべきのみ。」

日清戦争開戦時の福沢 - 『時事新報』 1894年7月29日

「日清の戦争は文野の戦争なり」 - 日清開戦は8月1日

現実主義と脱亜の文明観は民権を戦争に接続

大正デモクラシーと戦争について

大正期民衆の自発的文化運動と北原白秋



この問題は本書で論じてます。

ここで留意しておきたいのは
大正期自由教育の理念——**自発性**

「子供は子供として真に遊ばしめ、
学ばしめ、生かさしめ、光らしむべき
であって、従来大人の為の子供、
大人くさい子供たらしめる教育法は
その根本に於て、実に恐るべき誤謬
だつたと云ふ事だ。芸術自由教育の
提唱がここに於て当然光り輝いて来
る。」 (「童謡復興」1921年)

この白秋が民衆と共に戦争翼賛に歩いていく

震災から戦争へ進んだ詩歌曲



二つの北原白秋作品を聞き比べてみよう 万歳ヒットラー・ユーゲント

[1938年]

この道 [1926年8月]

- 1 この道はいつか来た道、
ああ、さうだよ、
あかしゃの花が咲いてる。
- 2 あの丘はいつか見た丘、
ああ、さうだよ。
ほら、白い時計臺だよ。
- 3 この道はいつか来た道、
ああ、さうだよ。
お母さまと馬車で行つたよ。



.....「いつか来た道」への郷愁

- 1 燦たり、輝く
ハーケン クロイツ
ようこそ遙々、西なる盟友、
いざ今見えん、朝日に迎へて
我等ぞ東亜の青年日本。
万歳、ヒットラー・ユーゲント
万歳、ナチス。
- 2 聴けわが歡呼を
ハーケン クロイツ
響けよその旗 この風 この夏、
防共ひとたび 君我誓はば、
正大為すあり世紀の進展。
万歳、ヒットラー・ユーゲント
万歳、ナチス。

自発性は郷愁(絆?)を介して国家意識に導かれた

二つの時代の民主主義の経験とは

民権と国権との、自発性と国家意識との
それ故、デモクラシーとナショナリズムとの
接合という経験

**この時に民衆(労働者細民!)が
実は想起されていた**

しかも、注意したいのは

その**同じプロセス**で行使された

植民地主義と排除の暴力

民主主義の歴史に生じた排除の暴力

自由民権運動においては

(有産者男性の) 議会開設(1889)

群馬事件、加波山事件、秩父事件など

貧農の蜂起と武力制圧(1884)

大正デモクラシーにおいては

(日本人男性の) 普通選挙(1925)

三一独立運動(1919)、関東大震災(1923)下の
朝鮮人大虐殺

植民地主義に導かれたこの**排除の暴力**が

国民を凝集させ**戦争民主主義**を駆動する

そこで、民主主義についての語りを変える

これまでは、
単一の政治構成体を前提に

デモクラティアー（ギリシア語:δημοκρατία）
「デーモス」（δῆμος：people）
「クラトス」（κράτος：power）
・・・「民衆」による「執権」

君主制
貴族制 に対する 民主制

あるいは
独裁政治 vs 民主政治

これからは、
多様な諸政治構成体の中で

権力形式として
エリート支配
vs 民衆の支配
= 民主主義

作動様態として
戦争・覇権・植民地主義
vs 平和・人権
= 人権主義

国民国家の枠を相対化しつつ
と を共に問う語りの形へ

民主主義と植民地主義との密通的連関

「民主主義の内 / 民主主義の外」の編成は、
国民国家の本質的構成契機

—ジェンダー/階級/種族—国民のカテゴリ編成

植民地主義は、包摂と排除の暴力で

「民主主義の内外」を(再)編成し内に組込む

—ジェンダー/階級/民族—帝国臣民のカテゴリ編成

戦争民主主義はそこに生まれた